

月刊島民

中之島

Vol.103 2017 2/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)

橋を渡る人の「街事情」マガジン

堂島より愛をこめて。



ナカノシマ大学

「大相撲2017年問題
を語ろう」

浦風富道

申し込み受付中!

堂島より愛をこめて。



江戸時代、全国の年貢米が集まってきた大坂。堂島にあった米市場と中之島の蔵屋敷は不可分の関係にあり、「天下の台所」と呼ばれた大坂の経済の中心的な役割を果たした。しかし、その実態はあまりよく知られているとは言えない。誰がどんな仕事をしていたのか？なぜ米市場が必要だったのか？当時の絵図や資料を元に紐解いてみる。

取材文／江口由夏（本誌） 取材協力／宮本又郎（大阪企業家ミュージアム館長・大阪大学名誉教授）

【米の堂島史】其の一

国元から大坂へ。 江戸時代のお米流通システム。

まず諸藩の大名は税として、農民から年貢米を取り立てる。①しかし、その米を全部食べてしまうのではない。現金に換えないと他の生活必需品は何も手に入らない。大名から藩士へ渡す「俸禄米」や「扶持米」といった給料も、形式上は「米」だが、実際は貨幣で支払われていた。そこで一大換金拠点である大坂へ、米を一括で送るわけだ。秋に収穫が終わわり、国元で船に積みこまれた米俵は、その秋冬のうちに大坂にある諸藩の蔵屋敷へ向かう。船が



かつて大阪市立科学館の北側に存在した、広島藩蔵屋敷の復元模型（大阪歴史博物館）。国元から米俵が届いたようだ。

解説はこの方



大阪企業家ミュージアム館長・大阪大学名誉教授
宮本又郎さん

関西学院大学客員教授、放送大学客員教授。著書に『日本企業経営史研究—人と制度と戦略と』（有斐閣）『商都大坂をつくった男 五代友厚』（NHK出版）など多数。

大坂に近づく、蔵屋敷から出した小舟に積み替え、市中の川を通って蔵屋敷に届けられる。②と言ってもこれは九州・中国の西国諸藩のスケジュールで、北国の諸藩は荒れる冬の日本海を避けて翌年の春から初夏に届くのが常だった。このような米の到着時期の違いが、米市のシステムにも影響を与えることになるのを覚えておいてほしい。

大坂に出回る米を「廻米」と言い、蔵屋敷に納められるので「蔵米」とも



宮本先生のワンポイント解説 蔵屋敷で働く町人たち。

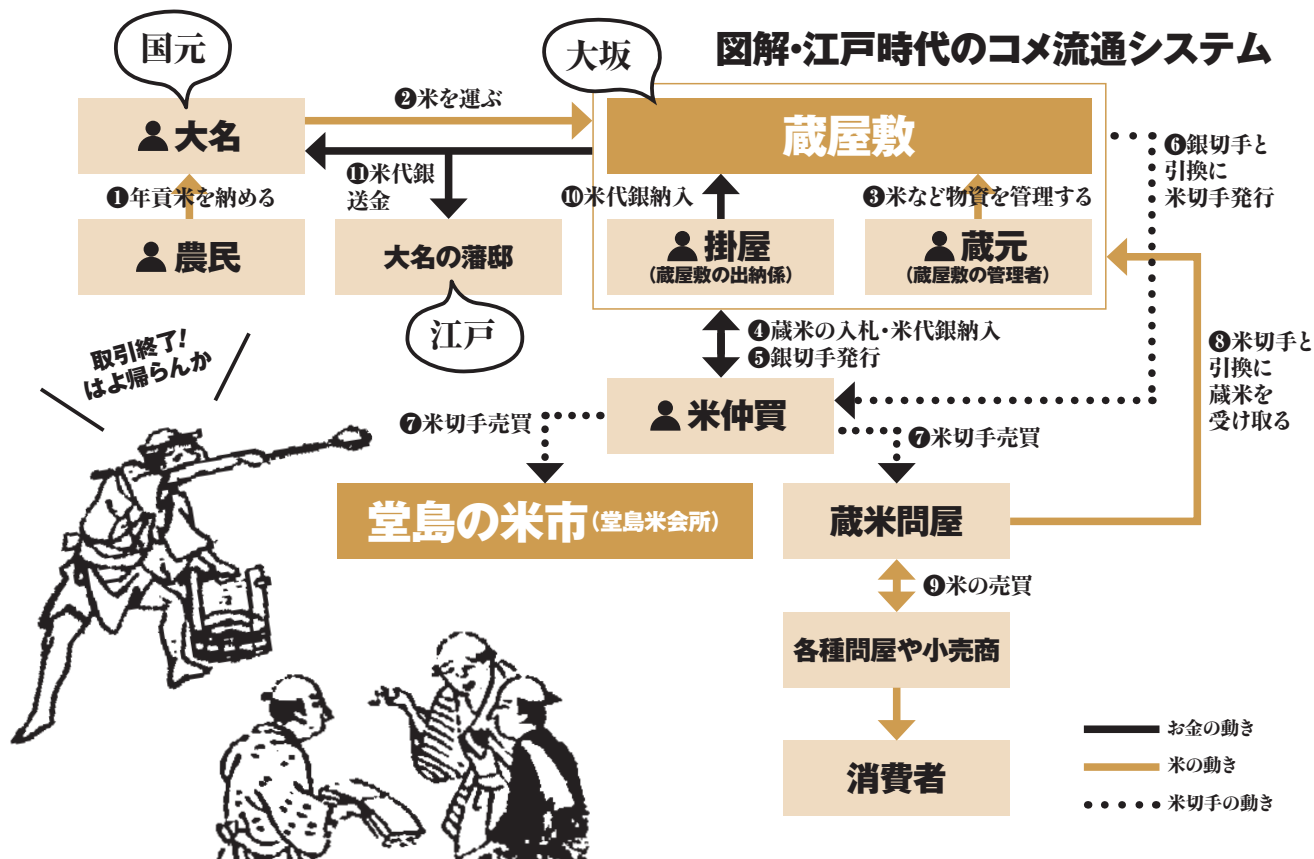
大坂にある諸藩の蔵屋敷では、いろいろな人が働いていました。責任者である「留守居」（るすい）をはじめ、国元出身の役人たちが駐在。その他に蔵米など物資の出入りを管理する「蔵元」（くらもと）③、米仲買人から金銭を受け取って蔵屋敷に納める経理担当の「掛屋」（かけや）④などがいましたが、だんだんとお金を扱うのに慣れた大坂商人たちが請け負うようになりました。

諸藩と上手く結びついた彼らは士分に取り立ててもらっただけでなく、クライアントの藩や米仲買人から手数料をとることで美味しい思いをしていたようです。鴻池屋や加島屋など、有能な豪商たちが蔵元と掛屋を兼任する場合も多々見られました。



『摂津名所図会』『堂島米市米市場』より
大阪府立中之島図書館蔵

図解・江戸時代のコメ流通システム



宮本先生のワンポイント解説 なぜ米が経済の中心に?

そもそも大坂に米市が必要になったのは、戦国時代から江戸時代にかけて開発ブームが訪れ、米が大量に収穫できるようになったからです。日本は稲作の経済と言われますが、中世までは小規模な山間部での栽培にとどまっていました。しかし、豊臣秀吉や戦国大名らによる大規模な河川改修が行われ、大河川下流の平野部で米の大増産が可能になった。江戸や大坂のような都心部で売れる米を年貢として徴収し、それらを送って換金したら効率が良いという考え方が、米中心経済の根本です。

蔵屋敷から仲買人へ。

大坂に届いた蔵米は、競売にかけられることになる。競売に参加するのは、「蔵名前」と呼ばれた幕府公認の入札資格を持つ米の仲買人たち。彼らは期日までに買い取り希望数と価格を各蔵屋敷に入札する。期日を迎えると最高入札価格から順番に落札者が決まり、定数に達したところで終了する。(4)

勘違いされがちなのだが、この入札が行われるのは米市ではなく、諸藩の

蔵屋敷において。藩によって米が蔵屋敷に到着する時期が異なるため、競売が行われる時期もずれるからだ。

さて、落札した仲買人は、翌日に手付金として3分の1の「敷銀」(当時、大坂で流通していた貨幣は銀だった、10日以内に残りの代銀を蔵屋敷の出納係である掛屋に支払う必要があった。代わりに掛屋は領収書である「銀切手」を発行。(5) その銀切手を蔵屋敷に持っていくことで、米仲買人は「米切手」を手に入れることができた。(6)

この米切手は、1枚につき10石の米と引き換えられる手形のようなもの。藩ごとに発行され、偽造を防ぐため、わざと特殊な文字で藩名や入札者などを記載していた。米仲買人は、米切手を依頼主である米問屋に売るか、堂島米市で他の米仲買に売りさばく。(7)

米切手を所持していれば、30日以内にいつでも蔵屋敷から蔵米を引き出せた。(8) その米が町人ら消費者の食卓に届くのである。(9)

一方、蔵屋敷の掛屋は手に入れた金銭を大名の江戸藩邸と国元へ送る。(10) この送金は為替を用いて行われたので、やはり掛屋はそういった業務に慣れている商人たちが適任だったようだ。米切手を介した実物取引(実質的な、ではあるが)は、16世紀半ば頃にはほぼ確立していたことがわかって

いる。



宮本先生のワンポイント解説

昔はもちろん米はありました。

まだ蔵屋敷がなかった時代は、大名たちは米を上手く売りさばく術を持たず、例えば淀屋のような豪商に頼むしかありませんでした。大名から売却を委託された淀屋は、自分の屋敷前に米市を開いていました。その市は、淀屋橋南詰から現在の三井住友銀行大阪本店ぐらまで広がっていたと考えられています。この頃はまだ、現物とお金のやり取りですから、米市にはちゃんと米俵がありました。大名が自分で管理できる蔵屋敷ができたことで、淀屋ら商人への委託はひとまず不要になり、代わって米切手というシステムが生まれてきたわけです。



仲買人が買った米切手が米問屋に売却され、米問屋がこれを蔵屋敷に持参して現米と引き換え、小売商に販売して消費者に届くというのが、大坂における米の流通ルートの一つだった。しかし、もう一つルートがあった。仲買人が蔵屋敷から買った米切手を自らの思惑で他の仲買人に転売し、それがさらに米問屋に売却されるというルートである。この米仲買同士が売買する市場として栄えたのが、堂島米市だった。ここに喜六と松七という2人の米仲買、清八という米問屋がいたとしよう。

【米の堂島史】其の二

米市なのに米はなし!?

大坂の米商いの実態とは。

喜六は広島藩蔵屋敷で落札した米切手を、堂島米市で松七に売却した。この売却は時の相場で行われるから、蔵屋敷で落札した値段より、米市での価格が高くなっていれば喜六は儲かる。下がっていれば損をする。次に、松七は米問屋の清八にこの米切手を売却。この販売価格は、時の米市の相場に一定の「仲買口銭」なかひこうせんが上乗せされている。米切手を買った清八は、これを蔵屋敷に持参して実米を入手し小売商に転売するが、この時にはさらに「問屋口銭」が上乗せされる。

ここで重要なのは、取引ごとに授受されたのは実米ではなく、米切手という紙片だったこと。米は嵩高くて重く、俵が破れたりすると厄介な物品だ。大量取引しなければいけない中で、米の代用として米切手で取引することは、大変便利だったのである。

このように堂島米市で売買されていたのは、すべて米切手。米市といっても、米の現物はなかったのである。そして、これが堂島の商いを隆盛にした大きな要因の一つだった。

金融商品化する米切手。

蔵屋敷で発行された米切手は、30日以内に実米と引き換えなければいけないと規定されていた。しかし、米切手を入手した米問屋たちはこのルールをなかなか守らなかった。なぜなら、米の需要は1年を通じてあり、蔵屋敷から米切手が発行される秋冬に米を引き取ってしまうと、自分の蔵で年中保管しておかねばならない。そこで蔵屋敷に甘えることにした。蔵屋敷はサービスで無料で実米を保管してくれたから、蔵出し期限は実質無期限となってしまうた。

一方、米切手を発行する側の蔵屋敷の役人や商人も、ふと気づく。米に換える者が少ないなら、米切手の量と同じだけの米の在庫は必要ない。むしろ、実態よりも多く米切手を発行すれば、その分だけ現金が手に入ることになる。この実米の裏付けがない米切手は「空から米切手」と呼ばれた。

米切手はほしいが米はいらない仲買人と、米切手の発行で儲ける蔵屋敷の



肥前国(佐賀県)唐津藩の米切手。特別展示開催中の大同生命大阪本社で見ることができる。

利害が一致し、米切手はいよいよ証券化していく。空米切手が不渡りになるのを恐れた幕府は、再三その発行を規制する法令を出す、発行は止まらなかった。

江戸時代も後半の文化11年(1814)、久留米藩が40万石もの空米切手を出して市場を大混乱させた事件などは、米切手の金融商品的性格の末路であった。

「米の堂島史」其の三

もつと自由な市場に！ 「先物取引」の誕生。

ところで、米切手による

取引にはリスクがあった。換金サイクルがルーズになったとは言え、米切手はいつかは実米に換わる。しかし、米という商品は豊凶があり、それによって価格が乱高下しやすい。思惑商い（金儲け）目当ての仲買人にとってはその方が旨味があるが、堅実な商いをした米問屋にとってはリスクが大きく取引に参加しづらくなる。また、不作の場合、各藩は米切手を発行できなくなり、現金が手に入らなくなってしまう。空米切手もやり過ぎるとただの借金になってしまうから、そうそう乱発できない。

そこで自然発生的に生まれたのが「帳合米」と呼ばれる先物取引だった。発行済みの米切手を売買し、4日以内に現銀と米切手を受け渡す実物取引と異なり、架空の米（帳簿上だけで売買が記録される米）の取引を行い、将来的に決済が行われるものを指す。



堂島米市の混雑は、「浪花百景」にも名所として描かれた。大阪府立中之島図書館蔵

先物取引は、わずかな手数料のみで手軽に参加できたことが大きな利点だった。実物取引では、一定の現銀や米切手を持っていないと売買に参加できなかったが、先物取引では、現金と米切手の授受が取引ごとには発生しないため、元になる現金や米切手を用意することなく誰もが参加しやすい。しかも決済は相場の変動による差額だけだったので、米の大量取引にはもってこい。江戸時代の大坂で生まれたこの先物取引は、世界に先駆けた「発明」だった。

なるほどすごい！

先物取引「リスクヘッジ」のしくみ。

帳合米を売買する先物取引は通常、米切手を扱う実物取引と並行して行われていたが、これが仲買人にとってのリスクヘッジ（損失回避）になっていたという理屈がわかるだろうか？

蔵屋敷が米の入札を始めるのはたいてい秋頃。しかし、米問屋は1年中米を売らなければならず、米仲買人にも年中発注がやって来る。ならばと言って、秋に大量に仕入れておいても、秋に1石50匁で買っておいた米の在庫が、翌年の夏に1石40匁でしか売れないとなれば、米問屋や米仲買人は大損。大きな儲けはいらないので、その損失をカバーする保険機能があったらいいのに…。少しも損失を出さず消費者に米を届ける方法はないだろうか？

次の表を見てみよう。米仲買人たちは米切手の実物取引で米を買うと同時に①、帳合米取引で同量の架空の米を売っておく。② これだけで米を売ろうとした時に相場が下がり、所持していた米切手を安く買われ

て損失が出ても③、下がった相場で架空の米を買い戻せばその分得をする。④

帳合米は帳面上だけの架空の米だから、必ず春・夏・冬の各シーズン内の一定期日までに同量の売買を行わなければならないと決められていた。シーズン最終日に売買の決済が行われ、翌シーズンには取引が持

ち込せないようになっていた。これにより、大きな損が（得も）なくなり、誰もが参加しやすい市場となった。2つの取引を同時にすることで、損益の大きな変動を回避する。現代にも通じるマネーの危機管理が、江戸時代の米仲買人たちの間で自然発生したことは驚くべき事実だ。

なぜ先物取引がリスクヘッジになるのか？

A月BH	①実物を買う	50匁×100石＝5000匁の支払い	空売のため、授受は手数料のみ
	②先物を売る	50匁×100石＝5000匁で売却	
A月BHの1ヶ月後	③実物を売る	40匁×(1+0.2)×100石＝4800匁の受け取り	①－③＝200匁の損⑤
	④先物を買う	40匁×100石＝4000匁の支払い	②－④＝1000匁の得⑥

⑥－⑤＝800匁の最終的な利益

ある日、喜六は1石50匁の米を100石買い、米切手を10枚手に入れた。もし売却する1ヶ月後に相場が下がってしまうと、20%の手数を付けて売却しても損失が出てしまう。そこで、米切手を買った同日に、同量の100石を1石50匁で空売しておく。こうすると、1ヶ月後に相場が40匁まで下がっても、空売した米100石を買い戻せばその差額の1000匁を受け取ることで、差し引き800匁の利益を得ることができる。

幕府による米市の公認を経て、 堂島米会所が誕生。

幕府の8代將軍・徳川吉宗は、就任以前から大増産のために続いていた米価安に苦慮していた。米が安く買われるということは収入額が少なくなることを意味し、それをあてにしている幕府や諸藩の財政は逼迫する。流通量を減らして米価が上がっても、度が過ぎると食うに困った町人たちが溢れて飢饉が起きる。米政策は幕府の悩みの種だったのである。

もともと江戸幕府は堂島の米市での取引方法を投機的と見て、米切手の転売だけでなく先物取引にも禁令を出してきた。そのせいで米切手が高騰すると考えられたし、武士にとって大事な拠点を賭博に使ってほしくなかったからだ。米切手を売り惜しむ仲買人が増え、市場が萎縮することも恐れていた。

しかし、吉宗は米市を利用して米価を引き上げようと方向転換を図った。米価の安定のためには、とにかく米の買い手をたくさん集めることが肝心。吉宗はまず江戸町人たちに許可を出し、大坂に米取引の機関を

開設する。が、思うように盛り上がりず、地元大坂の米仲買人たちからの猛抗議もあり、わずか数年で廃止された。同時に、かねてから大坂の米仲買人たちが願っていた先物取引を行う米市を享保15年（1730）、「堂島米会所」として公認した。

タイムテーブルと取引で見る 米とお金の動き。

それでは、ある日の取引タイムテーブルを例に、堂島米会所で行われていたやり取りを見てみよう。

堂島米会所の取引シーズンは春・夏・

冬の年3回で、旧暦1月～4月、5月～10月、10月～12月となる。これも諸藩の運送時期の違いによつて分けられていた。

米会所というからには大きな建物をイメージするが、実際はそんなものではなく、伝統的に路上を占拠して行われていた。『浪花名所図会』の「堂島米市の図」（大阪府立中之島図書館蔵）に描かれている人だかりが、まさに米会所なのである。

取引の形態は2種類。一つは米切手を売買する実物取引にあたる「正米商内」。堂島米会所では、契約してから

米切手と代銀の受け渡し

が4日以内と定められ、取引

が確実に履行されるように

されていた。

手元に現銀も

しくは米切手

がないと取引

に参加できないため、それ

を持たない米

仲買人たちに

米切手や現銀を貸し付ける両替商が発

展した。

取引タイムテーブル

朝五ツ	8:00～	帳合米商内開始
昼四ツ	10:00～	正米商内開始
昼九ツ	12:00	各取引終了
	昼食	
昼八ツ	14:00～	帳合米商内の午後取引開始

もう一つが先物取引で、帳簿上でのやり取りということから「帳合米商内」と呼ばれた。堂島米会所では、まず各シーズンの初めに筑前・中国・肥後・広島

の4歳のうちのどれかが、取引の標準となる「建物米」に投票で選ば

れる。現在という指標銘柄のことで、安

定的な米の収穫高が予想される藩に限

った。この建物米の相場が、米の標準

相場になって取引が行われていく。米

の仲買人たちは刻々と移り変わる相場

を見守りながら、米切手を売る相手を

探したり、買い渋ったりするわけだ。

午後の取引開始時に付けた火縄の火

が消えたところでその日のすべての取

引が終了。それに気づかない仲買人た



所のすべて。

こんなにいた／

米会所のお仕事図鑑。

最盛期には1,300人も。

米仲買

幕府公認の仲買株を持ち、堂島米会所での取引に参加できる。現物と先物取引、双方を行う者、どちらか一つの者がいた。米問屋と兼任することも。また、この仲買の中から会所に日参して市場を取り締まり、町奉行への届出などを担当する「米方年行司」とその補佐の「年行司加人」が選ばれた。仲買たちは会所近くに住む事が多く、各町に「月行司」というとりまとめ役もいた。



豪商といえばこのケース。

両替商

先物取引である帳合米商内は米切手や銀の受け渡しはなく、あらかじめ決めておいた額との差益のみで清算していた。その専門機関として「米方両替」があった。一方、米切手と銀の取引をしていた正米商内では、米仲買自身に元手が必要になる。そこでお金を融通したり、米切手を貸付ける「入替両替」が登場。大同生命につながる豪商の加島屋はその代表格だ。

嫌がらせではありません。

水方役人

堂島米会所の現場を取り仕切り、タイムキーパーとして取引が終了すると参加者に閉会を呼びかけた。と言っても、混雑する仲買たちに向けて桶の水を柄杓でまき散らすという荒業。それも一度では解散せず、1時間ごとに二番水、三番水と続けてまいた。それだけ、当時の堂島は熱気に包まれていたのだ。



大坂を飛び出し相場を報告。

米飛脚

米市は堂島だけでなく全国にあった。経済都市・大坂の相場は他国が一番気にするところで、そこで発達したのが「米飛脚」である。通常の飛脚より融通がきき、堂島での取引のタイミングに合わせて出立。約1日遅れで西日本へ伝達した。

江戸時代のインターネット。

旗振り通信

実用化されたのは19世紀以降と言われ、米飛脚よりもさらに早く、大坂での取引当日に相場を諸地方に伝えることができた。堂島米会所には櫓が設置され、白旗と黒旗を持った人が立ってスタートし、約1kmほどの櫓から櫓へ、リレーのようにつないでいく。なんと和歌山や京都へは数分、広島までなら40分。江戸までは箱根まで飛脚を使い、8時間かかった。あまりの便利さに、飛脚保護を掲げる幕府から一時禁止令が出たほど。投機市場の利益は、1分1秒に左右されるということなのだろう。大正時代まで残っていた風習である。



『浪花十二景ノ内』『堂島米市場』
大阪府立中之島図書館蔵

ちが騒がしいため、米会所の役員が彼らに水をまいて知らせる始末だった。

なお、米会所は胴元的な役割ではなく、売買はあくまで米仲買人同士（個人間）で行われるもの。一つの取引が成立することに米方両替という清算機関に報告し、帳簿に記録してもらう。ちなみに、絵図の後ろに見える建物がそうした事務を行う部屋だった。シーズン最終日には米方両替が決済を行い、架空の米である帳合米の売買が正当に行われたかなどを確認した。



大坂の米商い100年の到達点！

堂島米会所

米会所は積み重ねの結果。

こうしたルールが整えられたのも、江戸時代初頭から続いた商人たちの知恵と工夫があつてこそ。堂島米会所とはいわば、100年にわたる堂島での米商いの集大成なのだ。

それは、世界的にも目置かれる存在だった。慶応元年（1865）に成立したシカゴ商品取引所が発行した『商品取引便覧』には、「1730年代に、日本の大阪において先物取引を含む商品取引所が存在していたことは驚くべきことである」と紹介されている。大坂商人の損得勘定は江戸経済を回しただけでなく、回り回って世界のお手本になったのかもしれない。

What's淀屋?

豊臣時代に頭角を現した土木業者、常安。江戸時代初めに中之島を開発し、物資流通ルートを確保したことが、諸藩の蔵屋敷設置ブームの起爆剤に。彼が屋敷の前で開いた淀屋米市が、堂島米会所の前身である。

前期淀屋(大阪)

初代 淀屋常安

(?—1622)

中之島を開発後、青物市を掌握した初期型豪商

2代 淀屋言當

(1577—1643)

淀屋米市を開き、海産物市場を掌握

3代 淀屋簡斎

(1606—1648)

先代の功績で繁盛するも、働き盛りで早世

4代 淀屋重當

(1634—1697)

大名の娘を妻に迎え、町年寄を勤める

5代 淀屋廣當

(?—1717?)

若くして当主。関所は若さの隙を突かれたか

淀屋の番頭・
牧田仁右衛門に暖簾分け

関所
(財産没収)

倉吉淀屋(鳥取)→後期淀屋(大阪)

牧田家→淀屋清兵衛家

淀屋研究会

淀屋に興味があれば、誰でも入会歓迎。大阪駅前第3ビル22階の倉吉市関西事務所(鳥取県関西本部内)を拠点に、月例会や懇親会を開催。淀屋にゆかりがある関西や倉吉市の史跡めぐりを行うことも。

<http://www.ric.hi-ho.ne.jp/yodoya-ken/>

「淀屋は知名度のわりに現在でもわからないことが多い。調べがいがあるのが魅力です」と、ヨドケンこと淀屋研究会の代表・毛利信一さん(写真右)もともと歴史に興味があり史跡めぐり

中之島や堂島を開発して米の流通に深く関わり、橋や町の名前となって人々の記憶に残りながら、宮本先生をもつてしても「謎が多い」と言わしめる江戸時代の豪商・淀屋。そんな一族を研究している団体があると知り、(なぜか)鳥取県倉吉市の在阪事務所を訪ねた。

「淀屋は知名度のわりに現在でもわからないことが多い。調べがいがあるのが魅力です」と、ヨドケンこと淀屋研究会の代表・毛利信一さん(写真右)もともと歴史に興味があり史跡めぐり

は好きだったが、職場近くの佐太天神宮(守口市)の手水鉢に寄進者の淀屋の名を見つけて熱心に調べ始めた。設立して12年目。毛利さんのように趣味や興味が転じて淀屋研究会に入会するケースが多く、プロの研究者は不在ながら60人ほどが籍を置く。毛利さんら古参メンバーが綿密な資料を使い、月イチの学習会で講義を行う。職業に



「淀屋サミット」
2019年10月開催

によって経済など他分野に詳しい会員がいれば、講師になることも。ところで鳥取県倉吉市との関係は? 「1705年に淀屋は5代目で幕府から関所(財産没収)所払い)処分となり



はじめまして、
ヨドケンです!

「淀屋」の世界。知らない

は好きだったが、職場近くの佐太天神宮(守口市)の手水鉢に寄進者の淀屋の名を見つけて熱心に調べ始めた。

ます。事前に察知した4代目が番頭に暖簾分けして国元の倉吉へ戻し、倉吉淀屋が立ち上げられ、大阪の後期淀屋として再興しました。

そんな大阪と倉吉の縁から、関所から300年の2005年に在阪事務所

で開かれた「淀屋サミット」で晴れてヨドケンが誕生。倉吉市の出身者や牧田氏の子孫など、自らのルーツを知りたい県人たちも入会している。

「残念ながら、関所の際に多くの史料が失われているんです」と毛利さん。淀屋本家にならんと、淀屋と取引がありそうな諸藩を調べてみた。すると、鳥取藩や加賀藩などの史料から淀屋とつながりがあった手が見つかり、現在検証中。

二、資料がないなら外堀から調査。

関所以前の大坂での系譜は断片的な史料があったが、牧田淀屋の子孫筋に残されていた系図や、大阪と倉吉市内にある菩提寺の過去帳を整理して読み解き、ほぼその全容が明らかになった。これも会員や両市のネットワークを駆使してのこと。

一、淀屋の系図がほぼ明確に。

ここがすごい!
ヨドケンの研究成果

三、淀屋の文化人的側面が判明。

淀屋はデベロッパの豪商と言われるが、特に2代目の言當は和歌や茶を嗜む多才の持ち主だったそう。いくつかの雅号を持ち、多くの連歌関連の史料にも名前が見つかった。さらに文化人と幅広い交際をしていたことも書簡から判明した。「淀屋四代の墓に並んで、言當の妻子の墓があるんです。彼女たちが夫を支えた苦勞も、いつか調べてみたいですね」(毛利さん)。

大阪に相撲の
季節が到来!



ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の
懐徳堂
プロジェクト

◎今月の授業

【大相撲】



2017年3月講座 「大相撲2017年問題を語ろう」 ゲスト／浦風富道(元数島・陸奥部屋)



稀勢の里横綱昇進で沸く大相撲。土俵の上から支度部屋の中まで、
現役の親方だからこそ知っている、あんな話やこんな話をたっぷり!

初場所ですぐに優勝を
果たし、横綱に昇進した稀勢の里。ブー
ムの域を超えてすっかり定着した大相撲
人気に、さらに拍車がかかることは間違
いない。

そんな絶好のタイミングで開催される
大阪場所は、いよいよ12日に初日をを迎
える。稀勢の里だけではなく、成長著しい
御嶽海をはじめとする若手力士の台頭
にも注目。それを受けて立つ白鵬ら上位陣
との取組はさらに面白くなった。

ニュースに事欠かない大相撲の今を、お
なじみ浦風親方に語っていただこう。陸奥
部屋所属の現役親方であり、審判部の仕
事では日々の取組を土俵下から見つめる。
一方で、テレビやラジオでは型にはまらな
い語り口で相撲ファンを拡大し続けている。

今場所の展望から、伸び盛りの軽量級



力士やハイレベル
な十両の話題まで、
大相撲ニュース総ま
くりでお送りします。

浦風親方手づくりの
ちゃんこ鍋を食べよう!

なんと浦風親方が腕を振
るって参加者全員分のちゃ
んこ鍋をつくってくれます。部
屋直伝のレシピ、どうぞお楽
しみに。



あなたが気になる
大相撲の2017年問題を募集!

浦風親方に語ってほしいテーマを大募集。お
申し込みの際にお書き添えいただくと、講座の
中で紹介されるかもしれません。

「大相撲2017年問題を語ろう」

日時／2017年3月4日(土)

5:00PM～6:30PM頃(開場4:30PM～)

会場／FOLK old book store

受講料／2,700円(ちゃんこ鍋&ワンドリンク付き)

定員／50名(※立ち見の場合あり)

主催／ナカノシマ大学事務局

募
集
要
項

お名前・ご住所・電話番号・人数・講座名を明記の上、下記までハガキ、ファク
ス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。複数名でご参加希望
の場合、ハガキ、ファックスについては、人数分の必要事項を明記してください。

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
「ナカノシマ大学3月講座」受付係 FAX.06-4799-1341

※先着順で受付後、2月20日前後より受講票をお送りします。

※受講料は講座当日に受付にてお支払いください。

※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

※当日のお車ならびに自転車でのご来場はご遠慮ください。

ナカノシマ大学の最新情報は

<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは
こちら!→



お問い合わせ ☎ 06-4799-1340
(ナカノシマ大学事務局)

二月席のご案内

申込受付中

●お題「米澤彦八」

「米澤彦八トリビュート」

落語の祖と呼ばれる米澤彦八。江戸時代、生國魂神社の境内で演じていた「仕方物真似」が大人気を博し、それが後に落語へとつながっていく。その彦八の生涯を描いた小説『天下一の軽口男』を上梓した小説家の木下昌輝さんが今回のゲスト。謎に包まれた部分も多い彦八の人物像を、木下さんはどのように捉えたのか。彦八作とされる落語と一緒に楽しみたい！

落語「露の眞」寿限無

笑福亭生喬 姉の八足

桂九雀「味増蔵」

桂春之輔「有馬小便」

林家染二「景清」

鼎談「地口・軽口・語呂合せ」

ゲスト／木下昌輝（小説家）

高島幸次（大阪大学招聘教授）

桂春之輔

ゲストは、デビュー作で直木賞候補にもなった時代小説の新鋭だ。

ナカノシマ大学でお得な前売り券を発売中！

開催日／2月25日（土）

開演時間／6:00PM（開場5:30PM）／受付開始5:15PM（

受講料／2300円（通常・前売2500円／当日3000円）

お支払い方法／当日（5:15PM）、繁昌亭入口付近の「ナカノシマ大学受付」にてお支払いください。

※予定枚数に達し次第、予約受付を終了します。※ナカノシマ大学では当日券の販売は致しません。

●お申し込み方法、お問い合わせ先はP9を参照してください。

桂春之輔師匠のネタ、「有馬小便」も彦八作といわれる。下品な商売内容に思わず笑いが。



イラスト／フジワラトモコ



桂九雀さんは、彦八作とされる「味増蔵」を披露。味増屋の主人のケチっぷりが見事。

十二月席の二コマ

御来場御礼

鼎談「落語はミステリアス／落語を推理する」
有栖川有栖（ミステリー作家） 高島幸次 桂春之輔

有「算段の平兵衛」って

かなりサスペンスですよ。

犯人は平兵衛とわかってい

ても、アリバイづくりや死

体の隠し方にははらして

しまいます。

春 サスペンスというのは、

ミステリーと同じですか。

有 サスペンスはミステリ

ー（推理小説）のうちの

分野なんです。

さっき聞いた「ろくろ首」

は誰かが仕掛けていたわけ

でなく、実際に首が伸びる

怪奇現象なのでミステリー

ではないですけどね。

高 落語は滑稽噺や人情噺

は書きませんか？今年、「上

方落語台本募集」が復活す

るんです。今日の「移植屋

さん」も、作家の久坂部幸

さんの入選作なんです。

有 実は、聞いた人が古典

と勘違いしてしまうような

新作のアイデアは持ってい

るんですけどね。

春 入選作は繁昌亭で落語

家が演じさせてもらいます。

応募してください！





帰ってきた！ 関西人のための

「新潟のええところ・うまいもんゼミナール」

第5回「妙高温泉でヘルシー三昧～湯めぐり旅のススメ」講師／北出恭子・遠間和広



左／妙高温泉郷の一つ、関温泉にある雪の中の茶褐色の湯にてリラックス三昧の北出さん 右上／雪化粧が幻想的な妙高山といもり池。空が真っ青 右下（2点）／日本海で獲れた鰯の寄せ鍋と、地場産の食材を使った遠間旅館の夕食



きたで・きょうこ

1984年福岡生まれ。TV、ラジオ出演の傍ら、国内外の温泉を年間300以上めぐる。温泉ソムリエビジュアル&ダイエット、温泉マイスターなど11の資格を有し、温泉のセミナー講師、商品プロデュース、旅館アドバイザーとしても活動。Spring Labo LLC. 代表。著書に『九州絶品温泉、どこ行こ?』。

とおま・かずひろ

1965年妙高市赤倉生まれ。文化15年(1818)創業[遠間旅館]6代目。2002年に赤倉温泉にて温泉ソムリエ制度を発足させ、2005年には初代「にいがた観光カリスマ」に認定。温泉ソムリエ「家元」として多くの温泉ソムリエを育成。

●今シーズンの会場は

梅田・大阪富国生命ビル4Fの多目的スペース「アサヒ ラボ・ガーデン」。食やお酒、スポーツ、子育て等のイベントを頻繁に開催。フリースペースでは休憩や友人との待ち合わせに、読書にと使える憩いの場です。授乳室も完備。食と健康にちなんだ書籍もあります。

11:00AM～8:00PM 日曜休(祝日は営業) ※年末年始休

<http://www.asahigroup-holdings.com/research/labgarden/index.psp.html>



「妙高温泉でヘルシー三昧～湯めぐり旅のススメ」

日時／2017年3月1日(水)

6:30PM～8:00PM(開場6:00PM)

会場／アサヒ ラボ・ガーデン(大阪富国生命ビル4F)

受講料／無料(新潟県のおみやげ付き) 定員／50名

主催／新潟県観光協会大阪観光センター

共催／上越・糸魚川・妙高観光連携実行委員会

協力／アサヒ ラボ・ガーデン

運営／新潟のええところ・うまいもんゼミナール事務局

お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ・fax、もしくはナカノシマ大学HP(<http://nakanoshima-univ.com/>)内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ・faxでお申し込みの方で複数名の(応募される方も含めて4名まで可能)ご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記し、講座名と開催日を必ずお書き添えください。〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4F「関西にいがたゼミ」係 tel.06-4799-1340(平日10時～18時) fax.06-4799-1341 ※締切=2.17(金)必着。応募者多数の場合は抽選。当選の方にのみ、締切から5日以内に受講票を発送します。

7つの湯めぐりを体験するなら北陸新幹線で「上越妙高」へ！
新潟ゼミ、今年度の最後を飾る第5回は、全国屈指の温泉県・新潟の中でも妙高エリアにフォーカス。雄大なシルエットを見せる妙高山の麓にある妙高高原温泉郷は、泉質もお湯の色も異なる7つの温泉めぐりが楽しめる、全国でも珍しいエリア。そこに今回の講師

師で温泉ソムリエマスターの北出恭子さんが九州・福岡から訪れました。北出さんは地元で人気のTVレポーターであり司会者ですが、温泉ソムリエの資格を取ってからは忙しさに拍車がかかり、温泉取材に東奔西走の日々。その彼女が初めて体験した「妙高の湯の魅力」をたっぷりレポートします。さらに講師はもう一人。「温泉ソムリ

エ」を1万人以上育ててきた「家元」で妙高・赤倉温泉「遠間旅館」の6代目主人である遠間和広さん。北出さんの「師匠」でもある人です。弟子がレポーターし、師匠が楽しく講義する、温泉好きには必聴のスペシャルトーク。「秘境の美人湯」「斑尾山を眺める絶景露天風呂」ほかとっておきの名物や地酒、名所も伝授。お楽しみに！

新潟県へのアクセス

●JRの場合(大阪駅から)

特急サンダーバード→北陸新幹線

(金沢駅乗換、糸魚川駅・上越妙高駅)

約3時間50分

東海道・上越新幹線(東京駅乗換、新潟駅)

約4時間20分

●航空機の場合(大阪伊丹空港→新潟空港)

約1時間05分(1日10往復)

●クルマの場合(吹田IC→新潟中央IC)

名神高速道→北陸自動車道 約6時間30分

今

回の本誌の特集では、江戸時代に急速にコメ経済が発展し、大坂の私設市場が幕府公認になっていく様を取り上げた。これを認めた徳川吉宗という将軍は多方面に活躍した人で、特に科学が好きな理系人間だったらしい。そのおかげで、当時の日本の文明は大きく飛躍した。「天文学」もそのひとつなのだそうだ。

これらのことを教えてくれたのは、大阪市立科学館の学芸員である嘉数次人さん。嘉数さんは昨年、初の単著として『天文学者たちの江戸時代―暦・宇宙観の大転換』を上梓。もともと近世日本の天文学を専門に研究しており、この本は嘉数さんの研究内容をわかりやすく知ることができる。

かつて天文学の中心地だったのは江戸・大坂・京都の三都市で、プロ、アマチュアが熱心に取り組んでいたそうだ。特に大坂はアマチュア中心で、江戸時代の学びの場でありがちな閉塞的な空気がなく、同士や師弟間で知を分け与えていこうというオープンな気質だった。

「武士主導の江戸とは違い、人口の多さから見ても、大坂は町人主導の町。



大阪市立科学館では、嘉数さんを始めとする個性的な学芸員の方々が、プラネタリウム解説やサイエンスショーで理解を深めてくれる。2月11日（土・祝）は朝10時30分より、アマチュアの皆さんが実験ショーの腕を競い合う「科学実験大会2017」を展示場3階にて開催。だれでも観覧大歓迎。開館時間／9:30AM～5:00PM（展示場入場は30分前まで）月曜休館 展示場観覧料／大人400円 高・大学生300円 中学生以下無料

大坂町人の気質が、天文学の発展に寄与した。

役人に縛られすぎない懐の深さに加え、町人たちには豊富な財力や商売で培った人脈があり、学問の研究に役立つ要素がたくさん集まっていた。

嘉数さんの専門ということもあり、幕府に重用された大坂ゆかりの天文学者が多く登場するので、地元人としては誇り高い感じもするし、今に伝わる書簡や日記から判明した、成功ばかり

りでなく失敗や方向転換した描写は人間味があって面白い。たとえば有能な人物だった高橋景保が、国家機密の資料をシーボルトに見せてしまい死罪になるといのは、現代にもあるようなミスで気の毒にもなる…。

伝記でもなく、専門書でもない本書の特徴は、嘉数さんいわく「学芸員ならでは」。

「科学館は、一般の方に科学の楽しさや面白さを伝える場所なんです。学芸員としては、科学館でのちょっとした興味が次につながってくれと嬉しい。この本も難しすぎず簡単すぎず、興味の入口に立つ本になるよう目指しました」。

本書を片手に、実際に大阪市立科学館の天文学コーナーに足を運べるといいうのもミソだ。本の中で名前が出てくる書物や、復元された機器類に会うことができるのだから。この本が読者の知的好奇心を刺激し、科学の世界へ手を引いてくれることは間違いない。

『天文学者たちの江戸時代―暦・宇宙観の大転換』

（嘉数次人／780円＋税／ちくま新書）
嘉数さんが長年研究してきた、日本オリジナルの暦を作った渋川春海、徳川吉宗と「天文方」という機関の役人たちが、観測機器の精度を上げた質屋生まれの間重富…。彼らの生涯やその功績を通して、天文学の歴史がわかるようになっている。書店にて発売中。

クルーが毎月綴ります／

大阪水上バスの クルーズ歳時記

思い出のイベントクルーズ あれこれ

今回は昨年開催した変わり種クルーズをご紹介します。反響があれば今年も運航しますよ！

水都号アクアミニの「戦国忍者キッズ・真田幸村出陣クルーズ」は体験型クルーズ。手裏剣修行や忍術修行をこなしたクルーが目指すは大阪城！水辺には忍者文字が隠れており、それを見つけて一つの言葉にすると…？



大阪水上バス
企画宣伝部
岸田俊徳さん



同じくアクアミニの「中之島ナイトクルーズ」は、淀屋橋港から美味しいお酒を片手に、素敵な音楽を楽しむ優雅な期間限定クルーズ。月刊島民でも紹介され、たくさんの方に乗船いただきました。

そして、ひまわりの「プロモーションクルーズ」。中之島の夕暮れを楽しむには、船上デッキに出られるこの船が人気。チェリーの洋酒漬けをあてにビールを飲むお客様姿が印象的でした。

でも一番の思い出は、水辺アイドル「みずのみやこ」とのコラボ。忍者イベントでは手裏剣ブースでお客様とセッション。この人気なら、水都大阪のイベントに登場する日は近いかも。



アクアライナーは毎日運航中！

料金／大人1,700円

子供(小学生以下)850円

運航時間／10時台～17時台

(所要時間:周遊約60分)

大阪水上バス アクアライナー

☎06-6942-5511(予約優先制)

KEIHAN
大阪水上バス

<http://suijo-bus.osaka/>

トウニン月報

2017年2月1日発行

スタンプラリーで 船場の歴史を歩いて再発見すべし

昨年9月、船場界隈に新しいフリーペーパーが生まれた。その名も「Discovery SENBA 船場ものがたり」。めくってみると、江戸時代の船場にまつわる資料を通してその歴史が紐解かれており、かなり読み応えがある。

編集を担当しているのは、

江戸時代から続く老舗の昆布店「神宗」・大阪の箱寿司文化を牽引する「吉野寿司」・そして船場の食文化の歴史に敬意を表したお菓子づくりを掲げるパティスリー「五感」。いずれも伝統を重んじる3店舗だが、最近はその船場に新しい風を吹きこもうとする動きが生まれ、次世代を担う若手同士で意気投合しているのだそう。

「Discovery SENBA 船場ものがたり」

現在は「神宗」「吉野寿司」「五感」で第2号を配布中。スタンプラリーの受付は3月15日(水)まで。
☎06-6201-2700 (神宗)



各店舗をまわって3つのスタンプを集めると、美味しいプ

的に発行したのが、「食」を切り口に船場を紹介していく季刊のフリーペーパー。配布中の第2号も、「神宗」に伝わる絵図を使って堂島米市を紹介するなどの充実ぶり。また、

プレゼントがもらえるというの嬉しい。

船場のスタンプラリーといえ、2月12日(日)～2月18日(土)には「大阪の恩人」と呼ばれる五代友厚にちなんだスタンプラリーが開催される。これは2月12日が五代の誕生日であることから、五代が設立した大阪商工会議所と大阪取引所が共催。大阪企業

「大阪の恩人・五代友厚スタンプラリー2017」

2月12日(日)～2月18日(土)まで、大阪企業家ミュージアムと大阪取引所にシートを配布。記念品は先着1,000名様にプレゼント。本文で紹介したイベントの詳細や申込方法については、電話で問い合わせを。

☎06-4964-7601(大阪企業家ミュージアム)

<http://www.kigyoka.jp/>

家ミュージアムと大阪取引所をまわって2つのスタンプを集めると、記念品のオリジナルの缶バッジがもらえる。期間中は、大阪企業家ミュージアムに無料で入館することができ、大阪取引所でも無料の見学ツアーが行われるので、ぜひ立ち寄るべし。

この「五代友厚ウィーク」には、五代関連のイベントが同時開催される。13日(月)は本誌にも登場してくださった大阪企業家ミュージアム館長の宮本又郎先生による講演を実施。また、18日(土)は、五代友厚も関わった「大阪会議」開催地である花外楼にて、豪華な昼食をいただきながら、女将の話に耳を傾ける催しを開かれる。こちらもチェックを。(江口由夏・本誌)



「コーヒー、お菓子、調味料… 絶対に飽きさせません！」



レジのすぐ横にシヨーケースがある自家焙煎のコーヒー豆は、やはり自慢の品です。スタッフがお盆を持って試飲カップをお配りしているときは、ぜひ受け取ってください。常時40種類以上あるので購入する前に質や味を確かめられますし、店内でゆっくりお買い物されるときのお供に味わってもらいたいと思います。コーヒーだけでなくワインにお菓子、調味料など迷うほどの品揃えがありますから。

私は輸入調味料の棚を担当しています。日本ではなじみのない調味料が入荷した時や、「これを置いているのはここだけやわ」とお客さんに喜ばれた時に手ごたえを感じます。

実は、試せるのはコーヒーだけではないんですよ。頻度は多くありませんが、店内でオススメ調味料を使った料理の試食をお配りしているときもあります。お客さんからの質問を予想して、美味しそうなレシピを調べておくことも仕事のひとつ。味や使い方がわかりにくいスパイスは、まず自分で使ってみる。そのほうが説得力があります。いつかスパイスフェアなども企画してみたいですね。数ある食料品について勉強しておくのは大変ですが、どれにしようか迷われて

いるお客さんには、積極的にお声がけしています。この中之島店はオフィス街の



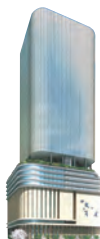
いからと、リビート買いやまとめ買いしにくさるの嬉しいですね！
特に人気なのは、「トリュフ・ジョヴィアル」という冬季限定のチョコレイト菓子。フランスの伝統的な生チョコレイトにココアパウダーをまぶしたもので、食べるとふわっと柔かく溶け、当店のコーヒーにも合います。私のお気に入りの豆は、酸味控えめでしつかりした味わいの「ジュピターブレンドダーク」ですが、こちらはクッキーのような軽い食感の焼菓子に合います。時々気分を変えて、ティーバックの手軽さが支持される「ジュピター」オリジナルティーで休憩というのはいかがでしょう。フレーバーもお茶請けも、飽きさせないほどご用意していますよ。もし迷われた時は「今日の気分」を私たちに教えてください。



コーヒーブレイクが楽しみになる、美味しい情報はこちらで [ジュピター 中之島フェスティバルプラザ店] 店長 近藤千聖さん

お客さんが中心。金曜夜や祝日前は、ワインについて尋ねられることが多いです。昼休みに立ち寄られ、ちょっとしたおやつや個包装タイプの箱菓子を買っていただける方が多いのも、こちらの店舗の特徴です。

て、ティーバックの手軽さが支持される「ジュピター」オリジナルティーで休憩というのはいかがでしょう。フレーバーもお茶請けも、飽きさせないほどご用意していますよ。もし迷われた時は「今日の気分」を私たちに教えてください。



祝 祭 へ よ う こ そ 。

FESTIVAL
PLAZA

<http://festivalplaza.jp/>
提供/株式会社 朝日ビルディング

Information from ジュピター 中之島フェスティバルプラザ店 [中之島フェスティバルタワーB1階]

国内外の幅広い食料品が揃う。200gから販売するコーヒー豆は「ジュピターブレンドダーク」460円など。「トリュフ・ジョヴィアル」は人気のカプチーノ味など5種の味で各507円。「美味しいのはコーヒーだけじゃない」と力を入れる紅茶は、アールグレイといった定番のほか、「はちみつ&レモン」や「シャンパンルーージュ」も人気(ティーバック10個入りで各307円)。すべて女性という知識豊富なスタッフに、好みを見つけてもらおう。
☎06-4708-3821 10:00AM~9:00PM



大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、
みんな「島民」です！



『月刊島民』はここでもらえます。

- 京阪電車関連 京阪電車主要駅／京阪シティモール／京阪モール／デリススタ天満橋店／ホテル京阪 天満橋／ホテル京阪 京橋 グランデ
- 大阪市北区・中央区・福島区 〔書店〕旭屋書店 梅田地下街店／紀伊國屋書店 梅田本店／グランフロント大阪店・本町店／ジュンク堂書店 大阪本店・梅田ヒルトンプラザ店・天満橋店／MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店／文教堂書店 淀屋橋店／隆祥館書店 〔公共施設・大学関連施設など〕アイズポット／朝日カルチャーセンター／味の素 食のライブラリー／ABC朝日放送／大阪企業家ミュージアム／大阪倶楽部／大阪工業技術専門学校／大阪国際会議場／大阪市中央公会堂／大阪市立科学館／大阪市立総合生涯学習センター／大阪市役所市民情報プラザ／大阪城天守閣／大阪商工会議所／大阪大学中之島センター／大阪21世紀協会／大阪府立中之島図書館／大阪ボランティア協会／大阪歴史博物館／追手門学院 大阪梅田サテライト／川の駅はちけんや／関西学院大学 大阪梅田キャンパス／慶應大阪シティキャンパス／国立国際美術館／CITYNAIL'Sインターナショナルスクール／芝川ビル／市立住まい情報センター／少彦神社／中央電気倶楽部 適塾／ドーチャ／ホテルNCB／メビック扇町／立命館大阪オフィス／龍谷大学大阪梅田キャンパス 〔店舗・医院など〕アンドール 本町本店／上町貸自転車／Ultra 2nd／江戸前鰻料理 志津可／天満橋鍼灸整骨院／MJB珈琲店／エルマーズグリーン コーヒーカウンター／OOO(オーオー)／カセット／喫茶カンタロ／喫茶SAWA／グラススイート中之島／黒門さかえ／コンモカフェ／The Court／サウワ花店 中之島本店／ザ・メロディ／シアトルベストコーヒー新聞ビル店／じろう亭／Girond's JR／心齋橋山田兄弟歯科／住友病院／セブイレブン大阪証券取引所店／タビエスタイル／たまがわ鍼灸整骨院／東郷歯科医院／NAKAGAWA1948 淀屋橋店／ナンジャーノ／パストラーレ／花かつ／BAR THE TIME 天神／平岡珈琲店／ビルマニアカフェ／FOLK／プレミウムハウス／ミニジロー／宮崎歯科／やきとりばかや／吉田理容所／LES LESTON
- 大阪市内その他 〔書店〕旭屋書店 なんばCITY店／紀伊國屋書店 京橋店／ジュンク堂書店 難波店／福島書店／柳々堂／ループル書店 〔公共施設・大学関連施設など〕大阪科学技術館／大阪市社会福祉研修・情報センター／大阪市立中央図書館／大阪府立中之島文化芸術創造センター／川口基督教教会 〔店舗・医院など〕あじさい／アートアンドクラフト／欧風食堂 ミリパル／大阪シティ信用金庫 江戸堀支店／御角かもめ／カルチャーカフェ上方／Calo Bookshop and cafe／写真とプリント社／鳥かごキッチン／ネイルサロン スワナ／バルビコ／ホステル64オオサカ／MANGUEIRA／Loop A
- 大阪府下 旭屋書店 京阪守口店／学達屋／Books 呼文堂／水嶋書房 ぐずはモール店／大阪狹山市立図書館／大阪市立難波市民学習センター／大阪大学企画部広報・社学連携事務局／大阪大学 21世紀懐徳堂／大阪大学本部／大阪府立中央図書館／摂南大学 地域連携センター／野村呼文堂／郵政考古学会／ゆったりんこ／連携房 童子
- 大阪府以外 ジュンク堂書店 西宮店／恵文社 一乗寺店／水嶋書房 丹波橋店／伊丹市文化振興財団／川のほとりの美術館／納屋工房／タバーン・シンパソン／百練／奈良県立図書館情報館／龍谷ミュージアム
- 東京 往来堂書店(千駄木)／BOOKSルエ(吉祥寺)／B&B(下北沢)／隣町珈琲(原宿中庭)／ONLY FREE PAPER(東小金井)／かもめブックス(新宿)

◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

次号予告 中之島Q

大きさは? かたちは? 「意外と知らない中之島のこと」をクイズ形式で出題。
答えを知ること、また新たな発見がきっとあるはずだ。

●『月刊島民』vol.104は2017年3月1日発行です！

編集・発行人／大迫 力(編集集団140B)
編集・発行／月刊島民プレス
若狭健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)
松本 創 江口由夏(編集集団140B)
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341
制作進行／堀西 賢(ALEGRESOL)
デザイン／山崎慎太郎
表紙イラスト／奈路道程
印刷／佐川印刷株式会社

着物 × おけいはん

KIMONO OKEIHAN



しあわせです、達人。

着るだけで、楽しくなるでしょ。

【今回の達人】
服部 有樹子



京都 おはりばこ / 出町柳 けい子

哲学の道や、大徳寺の界限へ。着物につつまれて京散歩。

着物の達人、服部 有樹子さんに教えてもらったのは、
季節やひとの想いにふれる、着物の楽しみ方。
もっといろんな場所、だれかと歩きたくなりました。
くわしくはwebマガジンを見てくださいね。

めざせ！ 沿線の達人

webマガジン《着物編》公開中！ >>> www.okeihan.net  
京阪電車主要駅のチラシもご覧ください。



京阪の
おけいはん、
人。